

令和6年度

# 第55回 東海北陸社会教育 研究大会 富山大会

## 第52回 富山県社会教育大会

### 報告書

**期日** 令和6年10月10日(木)・11日(金)

**会場** 富山県民会館 (富山市新総曲輪4-18)

主催 / (一社) 全国社会教育委員連合 東海北陸社会教育委員協議会連合会  
富山県社会教育委員連絡協議会 富山県社会教育振興協議会

# 目 次

会長あいさつ .....	1
大会概要 .....	2
大会スケジュール .....	3
大会役員 .....	5
連合会役員 .....	6
大会実行委員会役員 .....	7
表彰受賞者	
東海北陸社会教育委員協議会連合会表彰受賞者 .....	8
富山県社会教育大会社会教育功労者 .....	9
写真で振り返る富山大会 .....	10
記念講演（概要） .....	12
分科会役務者一覧 .....	14
分科会別研究協議	
第1分科会「家庭教育の支援」 .....	15
第2分科会「青少年の健全育成」 .....	21
第3分科会「地域文化の振興」 .....	27
第4分科会「地域の活性化」 .....	33
第5分科会「社会教育委員の役割と課題」 .....	39
大会宣言文 .....	45
大会旗引継ぎ・次年度開催地（岐阜大会）案内 .....	46
第67回全国大会案内・事務局一覧 .....	47

# ご あ い さ つ



東海北陸社会教育委員協議会連合会  
富山県社会教育委員連絡協議会  
会長 山西潤一

第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会は、東海北陸6県1市の社会教育委員、公民館関係者、社会教育関係者など、700名を超える多くの皆さんにご参加いただき、つつがなく終えることができました。ご多用の中、本大会の運営にご高配いただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。

本大会の主題、「目指そう！ウェルビーイングな社会～家庭や地域の教育力向上を通して～」のもと、家庭教育の支援、青少年の健全育成、地域文化の振興、地域の活性化、社会教育委員の役割と課題の5つの分科会で、熱心な議論が展開されました。参加した皆さんそれぞれに思い新たにされたことでしょう。

研究協議とともに準備させていただいたアトラクションでは、国の無形民俗文化財にも指定されている、五箇山の「こきりこ」を鑑賞いただきました。また、記念講演では、自然豊かな富山とそこに息づく人の温かさをカメラに収める著名なフォトグラファー イナガキヤスト氏に「未来まで残したい『#富山の本気』」を素晴らしい写真とともにご講演いただきました。上手な写真の撮り方の実演もしていただき、会場が盛り上がりました。

次代は予測困難で不確実、複雑で曖昧な未来社会と言われています。それぞれが社会の創り手となって課題を解決し、持続可能な社会を維持・発展させるとともに、多様な個人が幸せや生きがいを感じ、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるウェルビーイングの向上には、社会教育の役割がますます重要になってきます。「社会教育に携わる者としての使命と役割を自覚し、研鑽と実践を重ねながら地域社会の発展に貢献する」との大会宣言を胸に、ここに集った皆さんのネットワークを一層広げ、ともに社会教育の充実に取り組んでいきたいと思います。

最後に、本大会開催にあたりご高配いただきました富山県、県内市町村の社会教育関係の皆さんに心より感謝申し上げますとともに、次年度の岐阜大会が実り多い大会になりますことをご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

# 第55回 東海北陸社会教育研究大会富山大会 第52回 富山県社会教育大会

## 大会概要

### 大会主題

**目指そう！ウェルビーイングな社会**  
～家庭や地域の教育力向上を通して～

#### 1 趣旨

ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。富山県では、ウェルビーイングを成長戦略の中心に位置付けており、一人ひとりが、様々な人や社会とのつながりの中で、日々、自分らしく生きていることに満足でき、心豊かに、幸せをずっと実感できることを目指している。

社会教育は、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生み出し、地域コミュニティにおける個人と地域社会全体のウェルビーイングの向上に大きな役割を担っている。ここに、東海北陸6県1市の社会教育委員をはじめとする社会教育関係者が一堂に会し、各地域における社会教育活動の実践や研究成果について情報交換をし、ウェルビーイングの向上に向けた新たな社会教育の振興方策について研究協議を行い研鑽を深める。

#### 2 期日

令和6年10月10日(木)～11日(金)

#### 3 会場

10日(木) 全体会 富山県民会館 大ホール  
〒930-0006 富山市新総曲輪4-18 TEL 076-432-3111  
11日(金) 分科会 富山県民会館 各会場

#### 4 参加者

東海北陸各県市町村の社会教育委員及び社会教育関係者

#### 5 主催

(一社)全国社会教育委員連合 東海北陸社会教育委員協議会連合会  
富山県社会教育委員連絡協議会 富山県社会教育振興協議会

#### 6 後援

富山県 富山県教育委員会 富山市 富山市教育委員会  
東海北陸六県市町村教育委員会連合会

#### 7 日程

##### ■1日目 <10月10日(木)>

12:00	12:45	13:15	13:25	14:05	14:15	15:45	16:15	17:00
受付	アフタフンション		開表 会彰 式式			記念講演	閉会行事 大会旗引き継ぎ	分科会打合せ

##### ■2日目 <10月11日(金)>

9:00	9:20	11:30	11:45
受付		分科会	閉会

# 大会スケジュール

## 第1日目…10月10日(木)

時 間	内 容	備 考
11:30～ 12:00	被表彰者等受付 アトラクションリハーサル	2階ホール前 ステージ
12:00～ 12:20	被表彰者打合せ（リハーサル）	2階ホール
12:00～ 12:45	一般受付	2階ホール前
<b>【全 体 会】</b>		
12:45～ 13:15	<u>アトラクション</u> 越中五箇山こきりこ唄保存会  ( ステージ設営 )	
13:25～ 14:05	<u>開会行事</u> 開 会 の 言 葉 第55回東海北陸社会教育研究大会実行委員会 副委員長 中 西 彰  国 歌 斉 唱 主 催 者 挨 拶 東海北陸社会教育委員協議会連合会 会 長 山 西 潤 一 (一社)全国社会教育委員連合 会 長 鈴 木 眞 理  表 彰 東海北陸社会教育委員協議会連合会表彰 14名 富山県社会教育大会社会教育功労者表彰 8名 被表彰者謝辞 高 井 清 高 来 賓 祝 辞 富山県知事 新 田 八 朗 富山県議会議長 山 本 徹 歓 迎 の 言 葉 富山市長 藤 井 裕 久 来 賓 紹 介	2階ホール
14:05～ 14:15	休 憩 (ステージ準備) 10分間	
14:15～ 15:45	<u>記念講演</u> 演 題 「未来まで残したい『#富山の本気』」 講 師 フォトグラファー イナガキヤスト 氏 コーディネーター とやまアナウンスアカデミー 米 原 由 紀 子 氏	
15:45～ 16:00	<u>大会宣言</u> 大会宣言文朗読 富山県社会教育委員連絡協議会 副会長 澤 井 隆	
16:00～ 16:15	<u>閉会行事</u> 開催県挨拶 富山県社会教育委員連絡協議会 会 長 山 西 潤 一 大会旗引継 (富山県から岐阜県へ) 次期開催県挨拶 岐阜県社会教育委員連絡協議会 会 長 天 野 知 子	
16:15～ 17:00	分科会打合せ 司会者、助言者、話題提供者、記録者 運営責任者、会場責任者	各分科会会場

## 第2日目…10月11日(金)

時 間	内 容		備 考
9:00～ 9:20	分科会受付		各分科会会場
9:20 ～ 11:30	5分科会		
	第 1	家庭教育の支援	304号室
	第 2	青少年の健全育成	701号室
	第 3	地域文化の振興	611号室
	第 4	地域の活性化	401号室
	第 5	社会教育委員の役割と課題	302号室
11:30～ 11:45	閉会	閉会の言葉 … 各分科会運営責任者	各分科会会場

## 第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会 役員

役 職	職 名	氏 名
大会 参 与	岐阜県環境生活部 部長	渡 辺 幸 司
	三重県教育委員会 教育長	福 永 和 伸
	石川県教育委員会 教育長	北 野 喜 樹
	愛知県教育委員会 教育長	飯 田 靖
	福井県教育委員会 教育長	藤 丸 伸 和
	名古屋市教育委員会 教育長	坪 田 知 広
	富山県教育委員会 教育長	廣 島 伸 一
大 会 長	東海北陸社会教育委員協議会連合会 会長 (富山県社会教育委員連絡協議会 会長)	山 西 潤 一
大会副会長	東海北陸社会教育委員協議会連合会 副会長 (岐阜県社会教育委員連絡協議会 会長)	天 野 知 子
大会 役 員	一般社団法人 全国社会教育委員連合 会長	鈴 木 眞 理
	岐阜県社会教育委員連絡協議会 会長	天 野 知 子
	岐阜県環境生活部県民生活課 課長	森 信 輔
	三重県社会教育委員連絡協議会 会長	山 口 恵 照
	三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課 課長	松 本 眞 人
	石川県社会教育委員連絡協議会 会長	前 哲 雄
	石川県教育委員会事務局生涯学習課 課長	岩 木 智 子
	愛知県社会教育委員連絡協議会 会長	谷 中 緑
	愛知県教育委員会あいちの学び推進課 課長	小野内 茂 喜
	福井県社会教育委員連絡協議会 会長	徳 本 達 之
	福井県教育庁生涯学習・文化財課 課長	志 尾 武 章
	名古屋市社会教育委員協議会 会長	原 田 信 之
	名古屋市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課 課長	櫻 井 景 子
	富山県社会教育委員連絡協議会 会長	山 西 潤 一
	富山県教育委員会生涯学習・文化財室 室長	辻 ゆかり

## 令和6年度 東海北陸社会教育委員協議会連合会 役員

役 職	職 名	氏 名
会 長	富山県社会教育委員連絡協議会 会長	山 西 潤 一
副 会 長	岐阜県社会教育委員連絡協議会 会長	天 野 知 子
理 事	三重県社会教育委員連絡協議会 会長	山 口 恵 照
	石川県社会教育委員連絡協議会 会長	前 哲 雄
	愛知県社会教育委員連絡協議会 会長	谷 中 緑
	福井県社会教育委員連絡協議会 会長	徳 本 達 之
	名古屋市社会教育委員協議会 会長	原 田 信 之
幹 事	岐阜県環境生活部県民生活課 課長	森 信 輔
	岐阜県社会教育委員連絡協議会 事務局長	河 口 洋二郎
	三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課 課長	松 本 真 人
	三重県社会教育委員連絡協議会 事務局長	野 村 太 郎
	石川県教育委員会事務局生涯学習課 課長	岩 木 智 子
	石川県社会教育委員連絡協議会 事務局長	新 谷 貴 晴
	愛知県教育委員会あいちの学び推進課 課長	小野内 茂 喜
	愛知県社会教育委員連絡協議会 事務局長	三 矢 克 之
	福井県教育庁生涯学習・文化財課 課長	志 尾 武 章
	福井県教育庁生涯学習・文化財課 主任	上 野 成 観
	名古屋市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課 課長	櫻 井 景 子
	名古屋市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課 課長補佐	鬼 頭 健 王
	富山県教育委員会生涯学習・文化財室 室長	辻 ゆかり
富山県教育委員会生涯学習・文化財室 副主幹	鷺 北 京 子	
監 事	富山県社会教育委員連絡協議会 監事	高 本 一 恵
	富山県社会教育委員連絡協議会 監事	藤 田 一 彦

第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会・第52回富山県社会教育大会 実行委員会名簿

	役 職	氏 名	職 名	
①	委 員 長	山西 潤一	富山県社会教育委員連絡協議会 会長・滑川市社会教育委員会 委員長	
②	副 委 員 長	中西 彰	富山県社会教育振興協議会 会長	
③		武田 和一	富山県社会教育委員連絡協議会 副会長・南砺市社会教育委員会 委員長	
④		澤井 隆	富山県社会教育委員連絡協議会 副会長・立山町社会教育委員会 議長	
5		岩田 繁子	富山県社会教育振興協議会 副会長	
6	委 員	沼田 秀和	富山県社会教育振興協議会 副会長	
7		中村 茂信	富山市社会教育委員会 議長	
8		高井 清高	高岡市社会教育委員会 会長	
9		藤井 徳子	射水市社会教育委員会 議長	
10		野澤 良成	魚津市社会教育委員会 議長 委員長	
11		河上 昌俊	氷見市社会教育委員会 委員長	
12		山本 誠	砺波市社会教育委員会 議長	
13		野村 智浩	舟橋村社会教育委員会 委員長	
14		酒井 悦雄	上市町社会教育委員会 委員長	
15		石垣美喜子	入善町社会教育委員会 議長	
16		菅田 宣雄	朝日町社会教育委員会 議長	
⑰		加藤 孝一	富山市教育委員会生涯学習課 課長	
⑱		澤田 剛章	高岡市教育委員会生涯学習・スポーツ課 課長	
19		星野 泰志	射水市教育委員会生涯学習・スポーツ課 課長	
20		山本 浩司	魚津市教育委員会生涯学習・スポーツ課 課長	
21		小谷 超	氷見市教育委員会文化振興課 課長	
22		相沢 卓巳	滑川市教育委員会生涯学習・スポーツ課 課長	
23		牧野 恵美	黒部市教育委員会生涯学習文化課 課長	
24		金平 裕	砺波市教育委員会生涯学習・スポーツ課 課長	
25		大野 淳也	小矢部市教育委員会文化スポーツ課 課長	
26		山下 真人	南砺市教育委員会生涯学習スポーツ課 課長	
27		松本 良樹	舟橋村教育委員会 事務局長	
28		平井 清利	上市町教育委員会 事務局長	
29		表寺 昌子	立山町教育委員会 教育課長 (～R6.9月)	
		作田 英信	〃 (R6.10月～)	
30		田中 良一	入善町教育委員会 事務局長	
31		水野 真也	朝日町教育委員会 事務局長	
⑳		監 事	高本 一恵	富山県社会教育委員連絡協議会 監事・黒部市社会教育委員会 委員長
㉑			藤田 一彦	富山県社会教育委員連絡協議会 監事・小矢部市社会教育委員会 議長
㉒		事 務 局 長	辻 ゆかり	富山県教育委員会生涯学習・文化財室 室長
㉓		事 務 局 次 長	前川 秋人	〃 次長
㉔	事 務 局 員	本田 正則	富山県社会教育振興協議会 事務局長	
㉕		河原 千里	富山県教育委員会生涯学習・文化財室 課長	
㉖		米井 和代	〃 副主幹	
㉗		鷺北 京子	〃 副主幹	

※ 番号の○印は、推進委員

## 令和6年度 東海北陸社会教育委員協議会連合会表彰 受賞者

区分	氏名	所属 (年数)	功 績
岐阜県	ごうた へみ 郷田 恵美	中津川市社会教育委員 (18年)	長きにわたり、中津川市社会教育委員並びに公民館運営審議会委員として活躍されている。元私立幼稚園教諭として家庭教育推進事業への助言や本市の子育てマイスター養成講座の講師を務めるなど積極的に取り組み、市民からの信頼も厚く、その功績は誠に顕著である。
	まつした ひろふみ 松下 泰文	飛騨市社会教育委員 (22年)	平成14年から旧神岡町社会教育委員、平成16年から飛騨市社会教育委員として、本市の社会教育の推進・発展に寄与されている。また、自身の知識や経験を活かし、青少年健全育成活動に大きく貢献されている。
三重県	おおくぼ まさお 大久保 雅生	川越町社会教育委員 (14年)	平成22年から川越町社会教育委員として、生涯学習の発展に尽力されている。特に本町の「あいさつ・声かけ運動」では、平成23年の立ち上げ段階から携わり、現在まで活動の中心的な役割を担うなど、地域に根ざした社会教育活動は各社会教育団体の模範となっている。
	つじもと あたる 辻本 當	津市社会教育委員 (10年)	平成26年から津市社会教育委員会委員長を務めている。平成30年からみさとの丘学園で化石学習を開始し、本市社会教育委員として地域と学校をつなぎ、子供たちの理科の学習を深めるとともに、学びの中で得た知識や感動により郷土愛を高める活動を行っている。他の社会教育委員の模範となっている。
石川県	みたに 三谷 みはる	輪島市社会教育委員 (11年)	平成25年から輪島市社会教育委員として、社会教育の振興に尽力した功績は誠に顕著である。また、生涯学習全般にわたって熱心に取り組み、その成果を本県社会教育研究協議会において発表することで、社会教育の振興に大きく貢献した。
	なかむら としお 中村 敏男	内灘町社会教育委員 (11年)	平成25年から内灘町社会教育委員を務めている。町子ども連絡協議会顧問や町男女共同参画推進委員会委員、町学びの風推進協議会委員、町新図書館整備事業検討委員会委員の経歴を活かし、地域の家庭教育、生涯学習の振興に大きく貢献した。
愛知県	いしぐる せいすけ 石黒 清介	大治町社会教育委員 (11年)	平成25年から大治町社会教育委員、平成28年から社会教育委員代表を務め、町教育委員会に答申案の提出を行うなど地域の社会教育振興に貢献している。また、第53回東海北陸社会教育研究大会愛知大会の開催にあたり、連合会会長として尽力し、大会の成功に貢献した。
	まつばら けいじ 松原 啓治	刈谷市社会教育委員 (11年)	平成26年から刈谷市社会教育審議会会長を務め、その献身的な姿勢は、社会教育委員の模範となっている。また同年より現在まで、市生涯学習推進会議副会長として市生涯学習推進計画の策定に尽力し、さらに市青少年問題協議会委員として青少年の健全育成にも貢献している。
名古屋市	はらだ のぶゆき 原田 信之	名古屋市社会教育委員 (8年)	平成28年2月から名古屋市社会教育委員、令和2年から本市社会教育委員協議会会長を務め、市の社会教育の発展に尽力している。また、第53回東海北陸社会教育研究大会愛知大会の開催にあたり、役員として大会の成功に貢献した。そのリーダーシップ及び調整力は、社会教育委員の模範となっている。
福井県	はやし けいこ 林 恵子	敦賀市社会教育委員 (16年)	平成19年から敦賀市社会教育委員を務めている。また平成24年から4年間は県社会教育委員も務めた。子育てに関する相談をはじめ子育て支援の豊富な経験を踏まえた家庭教育支援に関する貴重な意見を述べるなど、社会教育の発展に寄与している。平成23年には「とんとんキッズプロジェクト」を立ち上げ、災害児支援も行っている。
	くどう ふさこ 工藤 ふさ子	小浜市社会教育委員 (14年)	平成22年から小浜市社会教育委員として活動しており、平成28年から本市社会教育委員の会副議長を務めている。青年活動をテーマに研究に取り組むほか、家庭教育支援チームとして子育て世代を対象とした研修会を企画するなど本市の社会教育推進に大きく貢献している。
	みやもと やすかず 宮本 保一	小浜市社会教育委員 (14年)	平成22年から小浜市社会教育委員として活動しており、平成28年から本市社会教育委員の会副議長を務めている。「公民館の在り方」や「青年層の地域参画」等をテーマに研究に取り組み、研究報告書の提出を行った。近年では大学生や青年層との意見交換会を実施し、本市の社会教育の推進に大きく貢献している。
富山県	たかい きよたか 高井 清高	高岡市社会教育委員 (18年)	平成18年から高岡市社会教育委員を務めている。平成16年に市立成美公民館長に就任依頼、本市公民館連絡協議会副会長、会長を歴任され、自公民館の活動の拡充のほか、市全体の生涯学習活動に大きく貢献されている。
	ひらい ますらお 平井 丈夫	富山市社会教育委員 (9年)	平成27年から富山市社会教育委員を務めている。平成23年に上滝地区ふるさとづくり推進協議会及び自治振興会長に就任以来、ふるさとづくり推進連絡協議会副会長、会長等を歴任し、公民館活動や青少年の健全育成、生涯学習進展のために尽力されている。

## 第52回富山県社会教育大会 社会教育功労者

所 属	役 職 名	氏 名
富山県公民館連合会	富山県公民館連合会 副会長	なかむら しげのぶ 中 村 茂 信
富山県P T A連合会	富山県P T A連合会 前会長	なかむら そういちろう 中 村 総一郎
富山県高等学校P T A連合会	富山県高等学校P T A連合会 前会長	まつやま ともあき 松 山 朋 朗
日本ボーイスカウト富山県連盟	日本ボーイスカウト富山県連盟 理事	たなか けいこ 田 中 景 子
一般社団法人 ガールスカウト富山県連盟	(一社)ガールスカウト富山県連盟 第34団 団委員長	こまつ けいこ 小 松 敬 子
富山県図書館協会	子どもの本を読む会 代表	とっこ やちよ 東 狐 八千代
富山県社会教育委員連絡協議会	小矢部市社会教育委員	やまもと よしつぐ 山 本 善 継
富山県国公立幼稚園・こども園 P T A連絡協議会	全国国公立幼稚園・こども園P T A連絡 協議会 副会長	もりせ ただかつ 森 瀬 忠 克



開会の言葉  
中西実行副委員長



主催者挨拶  
山西東北陸社教連会長



主催者挨拶  
鈴木全国社教連会長



## 第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会 第52回富山県社会教育大会



来賓祝辞  
蔵堀副知事



来賓祝辞  
井上県議会副議長



歓迎の言葉  
宮口富山市教育長



司会者 米原由紀子 氏

### 東海北陸社会教育委員協議会 連合会表彰



### 富山県社会教育大会社会教育功労者表彰



被表彰者代表 謝辞

# アトラクション

五箇山こきりこ唄保存会



# 記念講演

未来まで残したい『#富山の本気』



コーディネーター 米原由紀子 氏



フォトグラファー  
イナガキヤスト 氏



講師紹介 武田県社教連副会長



大会宣言  
澤井県社教連副会長



次期開催県挨拶  
天野岐阜社教連会長



大会旗引継ぎ



進行 藤田県社教連監事



閉会の挨拶 高本県社教連監事

## 記念講演(概要)

演題 「未来まで残したい『# 富山の本気』」

講師 イナガキヤスト 氏

《プロフィール》

1981年生まれ 富山県射水市出身・在住のフォトグラファー

富山県の風景や家族の写真をX（旧 Twitter）や Instagramなどで発表し話題になっている。特に、富山県の自然風景を得意とし、透明度の高い海や、入道雲、緑豊かな渓谷などが多く、その美しい風景を通じて、多くの人々に癒しと感動を与えている。

NHK富山「イナガキヤストの本気旅」、KNB北日本放送「眺めのいい時間」などメディアへの出演も多数。射水市公式フォトアンバサダー、富山県警察フォトアンバサダー、立山黒部アルペンルートアンバサダーを務める。



コーディネーター 米原 由紀子 氏

《プロフィール》

元民放テレビ局アナウンサー

現在、とやまアナウンスアカデミーを主宰。アナウンサーとしての経験を活かし、子どもたちに「話す力」と合わせて「聴く力」も指導するほか、就職活動面接対策や大人の話し方の講座など、幅広く活躍している。



### <概要>

#### 1 フォトグラファーになったきっかけ

息子が生まれたときに、成長をきれいに残したいとカメラを購入したことがきっかけ。それから、家族の写真や趣味のキャンプ等、何でも撮ってSNSにアップするようになった。

2020年のGWあたり、コロナで外出できない人たちや帰省できない人たちに、富山の風景を見て楽しんでもらおうとSNSに富山の写真をアップしたところ、立て続けに注目されるようになった。それから、県や市、企業等から写真提供依頼が入るようになり、フォトグラファーとして本格活動するようになった。

## 2 作品紹介

富山県、東海北陸地区の美しい風景写真を数多く紹介いただいた。会場からは感嘆の声が聞こえていた。〈以下、一部紹介〉

富山市中心街と飛行機を一緒に撮った富山らしい写真。何度も同じ場所で同じタイミングで撮ってその中で一番きれいに撮れた一枚。コロナの時期に『#本気出しすぎた富山』と言葉を添えてアップし、ヤフーニュースで話題になったもの。



剣岳の真上から太陽が昇ってくる日は年2回しかないのに、ちゃんと晴れて、気嵐で、条件がよかった。雨晴海岸は写真を撮る人がいっぱい来るので、それも入れた方が雨晴っぽいと思って、この人たちを入れて撮った。まるで「11人のさむらい」のよう。

## 3 ミニワークショップ

スマートフォンで写真を撮る秘訣を紹介。

～きょうからあなたも名カメラマン～

※会場から希望された方をモデルに、ワークショップを開催いただいた。

## 4 未来まで残したいもの

未来まで残したいものは、おわら、新湊の曳山祭、滑川のネブタ流し等のお祭り。子どもたちも一緒に参加し、大人が子どもに教えていくことが大事。（祭りの写真を見ながらお話）

能登半島地震の被災地では、シャッターを押せなかった。今の日常風景も当たり前のようにいつもあるわけではない。（震災前の風景写真を見ながらお話）

写真はウェルビーイング。いいものを撮ろうと常にアンテナを張っている。すると、普段何気なく見過ごすような風景も、素敵に見えるようになる。だから、常に幸せな気持ちになる。日常の小さな幸せや地元のよいところを写真に残すことがウェルビーイングにつながる。

## 分科会役務者一覧

分科会	司会者	助言者	話題提供者	記録者	運営責任者	会場責任者
第1分科会 家庭教育の支援	石川県能登町 社会教育委員 内平 俊春	富山大学 名誉教授 神川 康子	石川県珠洲市 社会教育委員会議 議長 小町 康夫 石川県珠洲市 社会教育委員 内波 景子 富山県氷見市教育委員会 文化振興課 主任 伊東 翼 西尾 正輝	富山県氷見市教育委員会 文化振興課 課長 小谷 超 富山県氷見市教育委員会 文化振興課 主任 伊東 翼	富山県小矢部市 社会教育委員会 議長 藤田 一彦	富山県高岡市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 係長 吉野奈緒子
第2分科会 青少年の健全育成	愛知県武豊町 社会教育審議会 会長 榊原 吉夫	富山国際大学 教授 村上 満	愛知県田原市 社会教育審議会 会長 三竹 清一 富山県南砺市 社会教育委員会 副委員長 岩井 透	富山県砺波市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 主事 長原 佑 富山県小矢部市教育委員会 文化スポーツ課 主任 前田 早紀	富山県南砺市 社会教育委員会 委員長 武田 和一	富山県南砺市教育委員会事務局 生涯学習スポーツ課 副主幹・生涯学習係長 中川 浩伸
第3分科会 地域文化の振興	三重県津市 社会教育委員 井澤 淑子	富山県立大学 教授 大石 玄	三重県いなべ市 社会教育委員 小川 時生 富山県入善町 教育委員会事務局 局長代理 小野塚義仁	富山県津市教育委員会 生涯学習課・スポーツ課 係長 布野久美子 富山県朝日町 教育委員会事務局 局長代理・生涯学習係長 水島 雅樹	富山県黒部市 社会教育委員会 委員長 高本 一恵	富山県黒部市教育委員会事務局 生涯学習文化課 課長補佐 王生 透
第4分科会 地域の活性化	岐阜県中津川市 社会教育委員 木村 哲夫	富山大学 教授 林 誠一	岐阜県富加町教育委員会 地域学校協働活動支援員 板津由香里 岐阜県富加町教育委員会 地域学校協働本部長 井戸千恵子 富山県富山市教育委員会 生涯学習課 係長 本多由香利	富山県富山市教育委員会 生涯学習課 主事 佐竹 紗耶 富山県富山市教育委員会 生涯学習課 主事 池田莉里花	富山県滑川市 社会教育委員会 委員長 山西 潤一	富山県滑川市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 係長 荒田雄一郎
第5分科会 社会教育委員の 役割と課題	福井県越前町 社会教育委員の会 議長 澤 善英	富山大学 教授 藤田公仁子	福井県鯖江市 社会教育委員 森本 茂 富山県上市町 社会教育委員会 委員 山崎 正晴	富山県舟橋村 教育委員会事務局 社会教育係長 金山 智彦 富山県立山町教育委員会 教育課 文化体育係長 酒井史穂子	富山県立山町 社会教育委員会 議長 澤井 隆	富山県立山町教育委員会 教育課 課長補佐・生涯学習係長 寶田 裕美

# 「防災」リーフレットの活用 ～防災教育や実際の避難所運営等の場で～

石川県珠洲市 社会教育委員 小町 康夫 内波 景子

## 1 はじめに

令和元年度から、珠洲市社会教育委員会議ではSDGs関連の調査研究を行い、成果物のリーフレットを学校や公民館に学習資料として配布し活用を呼びかけてきた。しかし、活用されているかどうかの検証は不十分だった。そこで、令和5年度の初回の会合で、4年度の「防災とSDGsを考える」リーフレット（以下「防災」リーフレット）を使って検証し、年度末に活用事例集を発刊することを目標とした。

会合を重ね「防災」リーフレットが活用された場面を収集しながら進めてきたが、まとめの段階で能登半島地震に遭遇する。活用事例集は未発刊だが、防災教育や実際の避難所運営等で活用された事例を紹介する。



資料-1 「防災とSDGsを考える」リーフレット

## 2 実践・取組について

### (1) 防災教育の場面で

#### ① 活用事例1（正院小学校「総合的な学習の時間」）

令和5年4月に「安心・安全なまちづくりにむけて わたしたちにできること」というテーマで6年生の総合的な学習の時間が始まる。子供たちは6月に防災について基礎知識を収集する段階で「防災」リーフレットを活用した。

2学期に地域の方に取材して正院地区防災訓練の参加を呼びかける家庭向けのパンフレットを作成。その後、正院町に数か所ある津波避難場所のフィールドワークを



写真-1 正院小学校「総合的な学習の時間」

精力的に行い、手作りのハザードマップを完成させた。児童の防災意識を高めた実践である。

#### ② 活用事例2（宝立小中学校「総合的な学習の時間・学校行事」）

令和5年4月に、9年生が修学旅行で兵庫県防災未来センターにおいて減災を学んだとこ

ろから、総合的な学習の時間が始まる。6月に9年生が中心となって「防災」リーフレットを参考に、学校の避難訓練を企画した。実施後に児童生徒集会を開催し、避難訓練を振り返



写真-2 宝立小中学校「総合的な学習の時間・学校行事」

ると同時に、9年生が修学旅行で学んだことや自分たちの命を守るための行動について下級生に伝えた。また、地区防災訓練の場で9年生がこれまでの実践について地域の方に発表している。

9年生が中心となって、総合的な学習の時間と学校行事を繋げながら主体的に活動した実践である。

## (2) 実際の避難所運営等の場面で

### ① 活用事例1 (婦人会の学習会)

令和6年4月に行われた珠州市婦人会の理事会で、「防災」リーフレットをもとに発災後の各自の様子について意見交換をした。互いの理解や被害の惨めさ、助け合いの様子について知ることとなり、改めて共助の大切さを学ぶ機会となる。



写真-3 婦人会の学習会

### ② 活用事例2 (実際の避難所運営)

令和6年1月1日の発災時、市指定避難所の正院小学校には約500名の避難者が集まった。本部が立ち上がった際、「防災」リーフレットで強調されている関係機関との連携に繋がる医療介護班等の8つの班が作られた。

毎日のミーティングでは、各班の報告後に災害支援ナース・防災士・PWJ (ピースウィンズ・ジャパン) 等の県内外支援チームから助言を受け、課題を明確にして明日へと繋げた。結果的に、避難者、運営スタッフ、支援チームの連携が深まった避難所運営となる。



写真-4 実際の避難所運営

## 3 まとめ

幾つかの事例を通して「防災」リーフレットの活用を検証できたと思うが、さらに「防災」リーフレットの活用を幅広く丁寧に周知する必要がある。今後「防災」リーフレット活用事例集の発刊を予定しており、さらなる周知啓発を図っていきたい。

能登半島地震や奥能登豪雨により甚大な被害が生じたが、復旧・復興に向けて一歩ずつ歩んでいるところである。これからも市全体の復旧・復興に結びつく社会教育活動を模索していきたい。

## よく遊び、よく学べ、家庭教育を支える水族館の取組

～魚類生息調査・淡水魚食文化を通して小学生を川へ戻す活動～

富山県氷見市 教育委員会文化振興課 主査（学芸員） 西尾 正輝

### 1 はじめに

自然体験の多い子供には、自己肯定感が高く、道徳観・正義感の高い子供が多いことが国の調査で明らかになっている。そこで、氷見市で実施している富山大学理学部とNPO法人が連携して運営している「ひみラボ水族館」を核とした、子供たちと生き物、そして子供たちと川を近づける自然体験学習支援について紹介した。

### 2 実践・取組について

#### (1) 自然体験活動の実践

ひみラボ水族館では、エティエンヌ・ウェンガーら著書『コミュニティ・オブ・プラクティス』の実践コミュニティの原則の1つである「さまざまなレベルの参加を奨励する」ことに力点を置いている。分科会では水族館で実施している氷見の川の生き物を「知ってもらう」「興味を持ってもらう」「活動に参加する」の段階に応じた実践例を紹介した。

##### ① 「知ってもらう」活動（見るだけ）

水族館では氷見に住む約半分の種類である30種類以上の淡水魚が、常時飼育展示されている。「個別展示」では魚の種類ごとに1つの水槽を用意し、その魚の説明を詳しく書いたパネルを併設することで、来館者の学びを支援している。

##### ② 「興味を持ってもらう」活動（手を動かしてみる）

生き物が苦手という子供たちに対しては、ぬりえやクイズ、スタンプラリーやペーパークラフト体験ができるような配慮をしている。また、ザリガニ釣りやカメと触れ合うこともできることを紹介した。

##### ③ 「活動に参加する」（実際に川に入ってみる）

河川での魚捕りや昔から氷見に伝わる淡水魚の食文化や外来魚の食味体験を紹介し、淡水魚を絶滅危惧種としてだけではなく、食として身近なものと意識した実践について「寒ブナ」「タモロコ」「オオクチバス」の利用について紹介した。



写真-1 「知ってもらう」



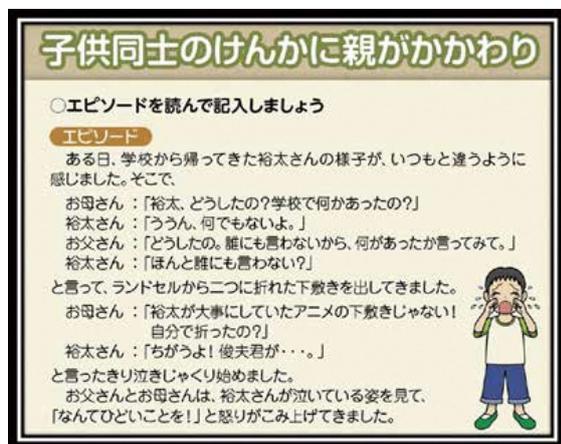
写真-2 「興味を持ってもらう」



写真-3 「活動に参加する」

## (2) 「親を学び伝える学習プログラム」の紹介

小学校での親子活動の一環として、ひみラボ水族館で「親学び」を実施している。分科会では、富山県が実施している「親学び」（親を学び伝える学習プログラム）について、親学びの目的や、富山県における参加者の推移を説明し、実際のエピソードを紹介し、参加者に考えてもらう時間を設けた。



資料-1 「親学び」のエピソード<例>

資料-2 「親学び」作業シート

## 3 まとめ

「初めて川に入った」「自分でも魚を捕ることができた」という、近年の家庭教育では手の届かなかった部分に支援ができてきていることは大きいと感じている。また、川に入らないまでも、水族館で魚の種類を調べて学習すること、「親学び」の場として利用してもらうこと等、その活用範囲は多岐に渡るようになってきている。

地方自治体である氷見市で、富山大学そしてNPO法人が連携した活動としては、少なくともこれまでのところ、成功した事例になっていると思われる。今後も、活動の継続とさらなる発展を目指していきたいと考えている。このような成功を収める上での秘訣であり、同時に今後の課題は「人」である。そのため、これからの水族館での活動や、それを通じた自然保護活動を担う人材の育成が重要である。そして水族館そのものが、まさにそのような人材育成の場として適した施設になるようにしていく必要がある。

ひみラボ水族館での自然体験活動や親学びについて紹介したところ、参加者から昔は「生き物に触れ合う機会が多かったが、今は少なくなっていること」や「外での活動であれば、お父さんに参加してもらうのはどうか? 参加するにはどのような方法が良いか?」などの意見があった。質疑応答の中で参加者とのやり取りもできた点は大きいと感じた。

## 第1分科会 研究協議概要

### 1 石川県珠洲市の発表について



- 意見** 社会教育委員を中心とした防災活動を本当に応援したいと思った。こういうことは当事者にならないと分からないことだと思う。
- 意見** 避難所でも子供への教育がなされており、こういうことが本当の教育なのだろうと思った。普段からの教育について考えさせられた。
- 質疑** 避難所で障害児は一緒に生活されたのか。
- 回答** 障害児はいなかったが、高齢の方がおられたので早めに福祉避難所に移っていただいた。
- 意見** 何でもやってあげることはその人の能力を奪うこと。できることとできないことを見極め、できないことを支援することが大切だと思った。災害ボランティアは何かをしてあげなければいけないと思って行くが「一緒にやる」「できることはやってもらう」ということが大切だと学んだ。
- 質疑** 子供たちの手作りの新聞、素晴らしいと思った。あれは子供たちからの提案なのか、それとも先生からの働きかけなのか。
- 回答** 実際に関わった子供のインタビュー動画を紹介する。（会場で動画の紹介）

### 2 富山県氷見市の発表について



- 質疑** 親学びの集まる人数はどれくらいか。
- 回答** 5、6人の小グループの方がいいと思う。学校によって人数は違うが、毎回50人前後が参加し、就学時健診で子供を待っている間等の機会を利用して行っている。
- 意見** 今は井戸端会議のような場が少なくなり、親もきっかけを求めている。親学びの場で、参加された皆さんが学び合っているのを見ると嬉しくなる。
- 意見** 自分の子供たちは小さい頃、川に飛び込んで遊んでいたが、今は時代が変わった。今の子供たちは自然と関わるのが難しくなっている。
- 意見** 子供の健全な育成には、自然体験が大切だと考えている。ひみラボの取組は、これからもぜひ続けてほしい。
- 意見** 子供は色々な人と関わって成長していく。親も、親としてどうあればいいのか、多くの人と関わるほど悩みが少なくなると思うので、貴重な研修になると思った。
- 質疑** お父さん方が体験できる場があるといいと思うが、参加しやすい企画や事例のヒントがあれば教えてほしい。
- 回答** 自然体験に関してはお父さんが参加されるケースが多いが、できるだけお父さんが出やすい日に設定することも一つの方法だと思う。

# 第1分科会 助言概要

## 1 助言者

富山大学名誉教授 神川 康子 氏



## 2 助言内容

社会教育委員の役割が重要だと感じた。人生に切れ目があってはいけないし、子育てにも切れ目があってはいけない。それをしっかりしていないのが社会教育委員である。子育てに関しても、昔のように大家族の誰かが支えているという時代ではないので、支え合いが必要というところからスタートした。今回発表頂いた皆様には、心から敬意と感謝を感じた。

### (1) 石川県珠洲市の発表について

◇ 災害を受けられて、現在も復興対応をされている中、珠洲、能登から発表にお越しいただいたことに感謝したい。厳しい状況の中において、年齢性別関係なく、ゲストではなくキャストという意識をもって、みんなが協力することで改善できることがある。学校、家庭だけに任せる時代ではない。誰かが言い出すことで輪が広がるというのが社会教育のいいところ。工夫として、常にホワイトボードを使うなど、情報を共有しながら進めることのすばらしさを改めて感じた。

### (2) 富山県氷見市の発表について

◇ 親学びに取り組んでいる学校と取り組んでいない学校とで、いじめや親とのトラブル件数が違う気がする。お互いを理解し合えるようになったという声がある。五感を使った体験で脳が発達するので、今回発表があったような小さい頃の自然体験は大切。大人も子供も、本気で遊ぶ。家庭教育は家庭の中という認識は外して、もっと外の世界に広げていくべき。その大きな役割を担っているのが社会教育委員なのだと思う。

### (3) 親学びについて

◇ 子供が孤独になりがちで、貧困に苦しむ家庭も多くなっている。子供の命と人権を大切に、自己肯定感を高める必要がある。子供の笑顔のためには親がまず元気に。子育てを共有することで他者理解を進め、自らも一緒に成長することができる。大人も子供と一緒に学び、成長し続けることを目指したい。みんなで力を合わせて、生き抜いていける子供たちを育てていきたい。家庭、学校、地域、男女区別関係なく、一緒に頑張ることが成果につながるのではないかと思う。各地域の意見を聞くことを通して、今日も私たちは成長できたのではないかと思う。

## ふるさとに学び 人が輝く 田原の人づくり

愛知県田原市 社会教育委員 三竹 清一

### 1 はじめに

田原市の青少年は、渥美半島の豊かな自然や伝統文化、スポーツ等を通して、ふるさとの魅力を体験的に学んでいる。ふるさと学習やキャリア教育、地域学校協働活動、地域の祭りやイベント、児童生徒文化体験教室、各種スポーツ教室、ボランティア活動等により、地域とかかわる中で心身ともに健全な青少年が育っている。

### 2 実践・取組について

#### (1) 体験からふるさとを学ぶ

##### ① 海から学ぶ（潮干狩り体験）

海岸近くに立地する中山小学校では、毎年、全校で潮干狩りを行っている。地元の漁業協同組合の方々やPTAの協力で、海に親しみ校区のよさを発見できる楽しい自然体験となっている。



写真-1 潮干狩り体験

##### ② 山から学ぶ（茶摘み体験）

校区に茶畑が広がる童浦小学校では、PTAや校区の方も多数参加し、全校で茶摘み体験を行っている。摘み取った若葉は地元業者で製茶されて新茶として届くので、子供も大人も毎年楽しみな自然体験となっている。



写真-2 茶摘み体験

#### (2) 人が輝く環境・場を整える

##### ① 市民館まつり（校区コミュニティ協議会）

各校区コミュニティ協議会は、毎年、工夫を凝らして、校区の特色を生かした市民館まつりを開催している。子供からお年寄りまで地域住民の顔と顔が分かり、心が触れ合う、人が輝く大切な交流の場となっている。



写真-3 市民館まつり

##### ② 文化教室・スポーツ教室（なのはなスポーツクラブ）

土曜日に小学1年生から高校3年生を対象に、水彩画、百人一首、生け花、茶道、書道、ギター、バレエ、演劇等の児童生徒文化体験教室を開催している。

また、なのはなスポーツクラブでは、子供からお年寄りまで多世代の人々が、身近な地域でスポーツに親しんでいる。地域住民により自主的、主体的に運営され、様々なスポーツ



写真-4 なのはなスポーツクラブ

を愛好する人々が、初心者からトップレベルまで参加できるスポーツクラブとなっている。

### (3) 地域課題に主体的に取り組む

#### ① ドリームの会（福江中学校ボランティアクラブ）

平成15年に発足した「ドリームの会」は、「ボランティアの心を育てる」「福祉の心を養う」「地域との交流を深める」ことを目的に活動している。現在100名ほどの登録があり、自主的に海岸清掃や福祉施設、コンサート会場等でのボランティア、さらに校区クリーンアップ隊や免々田川菜の花・桜まつりのつるし飾り作成等に参加している。ボランティア活動を通して主体性が育つとともに、地域課題に取り組むことで、様々な団体の方々と直接触れ合い、学びを深めるよい機会となっている。



写真-5 ドリームの会

#### ② たはランティア（田原中学校ボランティア団体）

「たはランティア」は平成29年に発足し、「田原市の未来を盛り上げ輝かせたい」と願い、主体的に活動を広げている。「田原を美しくする活動」のごみ拾いマップ作成、海洋ごみキーホルダーの作成・販売、ウニの飼育、まちなか賑わいづくり実行委員の方々とひな祭りやこいのぼり、七夕、竹灯籠イベント等に参加している。



写真-6 たはランティア

さらに、地域猫問題に関心をもった生徒が、動物愛護センターの方から保護活動を学び、地域のボランティア団体と一緒に募金活動や地域猫の保護や譲渡を行ったことで、地域猫への市民の関心が高まり、市の予算化へと動き出すきっかけにもなっている。

## 3 まとめ

田原市では、地域と学校が協働して、青少年に様々な体験活動や学習の場を整えてきている。ふるさとの魅力を体験的に学ぶことにより、地域の人々とのかかわりを深め、自己肯定感が高まり、心身ともに健全な青少年が育っている。

助言者から、「自発性・自律性・主体性を伸ばすために、『子供たちから、子供たちで、子供たちが』という姿を大切にしながら、やりたいことをしっかり周囲の大人（社会教育委員）が声を捉えて、実現できるよう環境や場を整えている。そして、興味や関心を持ったところへ気軽に出向き、学校・家庭・地域間の情報を共有し、話題づくりやつながりづくりに貢献している。都合のつく子供たちで緩やかにつながり、必要に応じて、必要な人が関わっていくことが継続する秘訣である」等の助言を頂いた。

今後とも、青少年を適切に指導できるコーディネーター等の人材育成に努め、学校・家庭・地域間の情報を共有し、一丸となって田原の人づくりができるように、社会教育の振興を図ってきたい。

## 第2分科会「青少年の健全育成」

# 限りない可能性をもった青少年のために

～青少年育成南砺市民会議の取組～

富山県南砺市 社会教育委員会 副委員長 岩井 透

## 1 はじめに

南砺市は、平成16年11月1日に4町4村の合併により誕生し、今年には合併20周年の節目の年を迎える。合併時に59,000人を超えていた人口は46,465人（令和6年5月末時点）となり、高齢化率は39.92%となっている。

当市は、富山県の南西部に位置し、面積668.64平方メートルのうち2割は、散居村で知られる砺波平野が広がっている。残り8割は世界文化遺産「五箇山合掌造り集落」のある山間部となっており、自然に恵まれた古き良き日本の原風景と伝統文化が今に継承されている。



資料-1 南砺市の場所

## 2 実践・取組について

### (1) 青少年育成南砺市民会議の概要

合併前の4町4村全てに青少年育成町村民会議が既に結成されていたことから、それらを引き継いだ8支部を統合した形で、青少年育成南砺市民会議を設立した。

### (2) 取組内容

#### ① 南砺市民会議での取組

##### ア 啓発活動

毎年11月の「子供・若者育成支援強調月間」に合わせて、当会議の活動への理解と青少年の健全な育成を推進するため、市のブランドマーク「NANTOくん」の着ぐるみを活用するなどしながら市民への啓発活動を行っている。

##### イ 各支部活動の支援及び情報共有

毎年2月に開催されている、社会教育推進大会の社会教育活動展示コーナーで、8支部の活動の様子を掲示し、世代や地域を超えて多くの市民の方々にご覧いただいている。



写真-1 「NANTOくん」との啓発活動

#### ② 各支部での取組

8支部では、従来よりそれぞれの実態や環境に応じて「地域に密着した独自の活動」を行ってきた。合併後も各支部における活動がそれぞれの地域で大切にされ、かつ特徴的なものが多いため、ほとんどが継続的に実施されている。

各支部での代表的な取組は次のとおり。

ア 福野支部

- ・「子ども110番の家」ウォークラリー
- ・ふくの少年ハーティクラブ活動

イ 福光支部

- ・子どものための学習会 ・善行表彰

ウ 城端支部

- ・あいさつ啓発看板の作成 ・白いポストの設置

エ 井波支部

- ・青少年育成講演 ・広報誌「若い芽」発行

オ 平支部

- ・南砺平高等学校制作の刺し子布巾贈呈
- ・親子草刈り活動

カ 上平支部

- ・輪島市門前町（民謡「お小夜節」の故郷）との交流会
- ・赤かぶ収穫体験

キ 利賀支部

- ・武蔵野第二小学校セカンドスクールとの交流
- ・中学生と先輩社会人との意見交換会

ク 井口支部

- ・親子活動（親子ダンス等）
- ・高齢者訪問（おはぎ配食）



写真-2 福野支部 子ども110番の家ウォークラリー



写真-3 福光支部 子どものための学習会

### 3 まとめ

合併前の4町4村が、それぞれの地域で文化や伝統を育んできたことと同じように、青少年育成市民会議の各支部においても、子供たちの健やかな成長を願いながら地域に根付いた多様な活動を行ってきた。今後はSNSやインターネット等の被害防止に重点を置いた活動にも取り組んでいくことが喫緊の課題である。

全国的に、子供に関わる事件や事故が後を絶たず発生している。このような中で、子供の健全な育成を図るためには、家庭・学校・地域が連携し、地域ぐるみで青少年を守り育てる活動が、より一層重要になってくる。

南砺市では、少子高齢化の進展に伴い、自分たちの地域の課題は自分たちで解決していくという、持続可能な地域づくりへ向けて、令和元年度から小規模多機能自治という新たな住民自治組織の「地域づくり協議会」が市全域で発足している。この地域づくり協議会を通して、地域の方々の理解と協力を更に得ながら、地域社会全体で子供・若者を積極的に育成する活動と気運、そして健全な環境づくりを、今後も継続して行っていきたい。青少年の健全な育成、環境づくりは青少年をとりまく大人全員の共通の願いである。

## 第2分科会 研究協議概要

### 1 愛知県田原市の発表について

**質疑** 文化教室・スポーツ教室（なのはなスポーツクラブ）の開催場所及び参加者の人数はどれだけか。また、スポーツクラブと中学校の連携はどのようになっているか。

**回答** 開催場所は、中学校の体育館や公民館等、人数に合わせた場所で開催している。参加者の人数は、多い時で20名、少ない時で5～6名である。中学校との連携については、部活動の問題もあり十分ではない。

**質疑** 中学生のボランティア活動等に対し、社会教育委員としてどのように関わりを持っているのか。

**回答** 学校へ寄り、気軽に声掛けをしている。情報を集めたり活動の様子を聞いたりして、それをいろんなところでまたつなげ広げていく。話題づくりをしてつながりづくりをしている。

**質疑** 中学生は忙しいと思うが、ボランティア活動をどのようにつなげてこられたのか。

また、まとめに「学校・家庭・地域が一丸となって」とあるが、今後、誰が中心となり、どのような方法でよりよい方向へ持っていくのか。

**回答** 中学生のボランティアは強制ではなく、「このゆびとーまれ」で集まった中学生が活動している。自分で判断し行っているので長く続いている。子供の興味あることにとことん寄り添い、子供の意見が通るように実現したい。一番大事なことは意欲をどうやって保ち続けるかということである。



### 2 富山県南砺市の発表について

**質疑** 小規模多機能自治「地域づくり協議会」とはどのような組織・運営なのか。

**回答** 旧小学校単位ごとに、市の交付金で常駐職員2名を雇用し、自治振興会・公民館・地区社会福祉協議会の全ての活動を行っている。各地区で必要な部会を作ることが可能であり、多いところでは7部会あるが、4部会で構成するところが多い。

**質疑** 青少年育成部会はあるのか。

**回答** 子供の人数が多い地区にはあるが、少ない地区では、文化スポーツ部会の中で、芋掘りをしたり、健康福祉部会の中で高齢者とスポーツ活動を行ったりしている。

**質疑** 子供たちのいじめ問題や再犯防止に取り組んでいることはあるか。

**回答** 市教育委員会が中心となり委員会を作り、各学校に調査を行い、いじめ件数や解決方法を確認している。

また、地域では、夏休みの公民館開放の時に気になる子がいれば、その子供や保護者と話をしている。

学校以外にも居場所を作ることが大事であり、ボーイスカウトやガールスカウト活動に参加することも良いだろう。



## 第2分科会 助言概要

### 1 助言者

富山国際大学子ども育成学部教授 村上 満 氏

### 2 助言内容

#### (1) 愛知県田原市の発表について

- ◇ 「子供たちから、子供たちで、子供たちが」のように、自発性、自律性、主体性を中心に捉えながら、都合のつく子供たちが参加することで、緩やかなつながりが出てくる。必要に応じて、必要な人が関わっていくところが継続の秘訣である。子供たちがやりたいことを、しっかり周囲の大人（社会教育委員）が声を捉えて、実現できるよう環境や場を整えていくことが重要であるというご意見であった。



#### (2) 富山県南砺市の発表について

- ◇ 町村合併前からそれぞれの地域が、子供たちに寄り添って唯一無二の活動を実施し続けてきている。まさに「8支部みんなちがってみんないい!」。なお、持続可能な南砺市づくりに向けた新しい組織である「地域づくり協議会」が拠点となり、青少年を育成していくという点も強みであるというご意見であった。

#### (3) 全体を通して

- ◇ 大会宣言文で使用された「多くの居場所」を持つは、非常に重要である。地域には色々な資源がある。これらをうまく利活用し、様々な学びや体験を行っている2つの活動実践は、まさに生きた言葉そのものであり、地域活動の賜物であった。
- ◇ 大会主題である、「目指そう！ウェルビーイングな社会」のウェルビーイングを高める要素として心理学では、ポジティブな感情、没頭感・没入感、何かそこに真剣な眼差しで熱中できるものがあるかということを挙げている。また、つながりがあって、やりがいがあって、達成感があることも大切だとしている。発表では、これらの要素を取り込み、地域の中で創意工夫を凝らして活動されてきた姿を拝見させて頂いた。
- ◇ 富山には3,000メートル級の山々が連峰としてある。「家庭と地域そして社会全体と連携しながら」という言葉は、今後ますます必要不可欠となる。富山から連携を思い出して頂ければありがたい。
- ◇ 富山と言えば、お薬の富山である。教育も同じで、即効で効く万能薬はない。一人一人が配置薬（役）となり、必要な時に必要なだけ、うまく役割を果たし、緩やかな居場所をつくるのが大切だと考える。
- ◇ 私の住む八尾町には「おわら風の盆」がある。この盆踊りの中にも教育が根つき、地域全体で行ってきたという環境の中で育てて頂いた。発表内容にもあった様々なお祭りや伝統文化・芸能、これらは社会にとっても、地域にとっても、改めて大切な資源（タカラ）であり、今後みんなで支援（チカラ）しなければならない。



## 地域に新しい触れ合いの場を ～「いなべ市ど真ん中まつり」の立ち上げ～

三重県いなべ市 社会教育委員 いなべ市子ども会連合会会長 小川 時生

### 1 はじめに

いなべ市は、平成15年に合併により誕生した。三重県の最北端に位置し、岐阜県・滋賀県との県境にある。名古屋から車で50分の距離にあり、人口は44,973人（令和2年国勢調査による）。

北に養老山地、西に鈴鹿山脈に抱かれ、中央を流れる員弁川を挟んで緑豊かな自然と平野に囲まれた地域で、自動車関連メーカー等が進出している。

市内の観光名所に、花の百名山 藤原岳、滝めぐりの宇賀溪、竜ヶ岳、梅林公園等があり、近年はアウトドアやサイクリングにも力を入れている。また、新しい市役所に隣接して「にぎわいの森」という市のまちづくり拠点がある。

その他、いなべブランドと位置付けている特産品には、そばがある。

### 2 実践・取組について

#### (1) 「いなべ市ど真ん中まつり」の概要

コンセプトは、見て楽しみ、参加して楽しむまつり。内容は、子供たちのステージ発表、よさこい、盆踊り、屋台や抽選会がある。会場は、いなべ市北勢市民会館駐車場、開催日は8月第二土曜日、いなべ市子供会連合会といなべ市青少年育成市民会議が共催で運営している。

#### (2) 令和6年度の概要

今年度は、ステージ発表9団体、盆踊り、屋台（ゲーム）7テント、屋台（飲食）3テント、出店10店、抽選会協力9社64本、スタッフ35人で開催したところ、参加者1,500人、事業費約24万円（収入32万円、支出56万円）だった。

#### (3) 「ど真ん中まつり」へ辿りつくまで

いなべ市子ども会連合会設立後、旧町で開催していた事業を統合した「こどもまつり」は、1年目に音楽鑑賞会、工作体験、作品展やジャンケン大会を行い、参加者は100人だった。2年目は舞台鑑賞会、舞台発表、体験教室やビンゴゲームを行い、参加者は80人で、増えるどころか減少した。

この状況を何とかしたいと考え、親子盆踊り大会に変えることにした。1年目は、とにかく突貫工事で6月に決定し8月に開催したところ、参加者は100人だった。2年目は、青少年育成市民会議に協力を依頼し、やぐらを借りて屋台を準備し開催したところ、参加者は185人で微増となったが、子供たちが踊ってくれないという課題があった。

そのような折、あるイベントで「よさこい」を自ら見様見真似で踊る子供たちを見て、「無理に参加してください」ではなく「自らやってみよう」をどうつくるかを考え、盆踊り大会を残し

つつ、見て楽しみ参加して楽しむまつりをつくり上げた。

#### (4) 「ど真ん中まつり」の「形」

##### ① 見る楽しさを

フラダンス、バトン、ダンス、楽器演奏、太鼓等の子供が頑張っているステージ発表と子供があこがれ、目標にしたいと思えるような大学生や社会人の「よさこい演舞」を取り入れた。

##### ② 縁日をより楽しく

スタッフが直営する屋台では少ないため、屋台経験者に出店を依頼した他、近隣のお店に出店を依頼することで屋台の数を増やした。

##### ③ 最後まで楽しんでほしい

途中で参加者が帰ってしまわないよう最後にお楽しみ抽選会を実施することにした。抽選会の景品が少なくでは盛り上がらないため、景品の寄付を市内のお店に依頼した。

##### ④ 知ってほしい

「ど真ん中まつり」の認知度を上げるため、市のローカルテレビ番組「いなべ10」で放映した。詳しくは、「YouTube inabecity」で検索されたい。

##### ⑤ コロナ禍でも…

コロナ禍でも開催できる形を模索し、規模を縮小し食べ物の屋台を無くした。舞台発表とゲーム屋台等で開催したところ、想定をはるかに超える600人が参加した。コロナが5類に移行した令和5年度は形を戻して開催し、参加者は1,000人に増えた。

#### (5) これからの「ど真ん中まつり」

「ど真ん中まつり」が地域に受け入れられ、参加者が増えた結果、新たな課題も出てきた。これまでは、出演や出店をお願いしていたが、出演枠やスペースの都合で声をかけなかったところから「なぜ今年では呼ばれなかったのか」と言われるようになった。

これに対し、原点に立ち返って開催の目的を見つめ直した。開催の目的は、「子供たちの夏休みの思い出づくり」「地域の人が世代を問わず参加できる場づくり」及び「子供たちの喜びや励み、次への意欲を持てる場づくり」であることを再確認し、主催者としては、「一人でも多くの人に参加してほしい！」との思いを新たにした。

### 3 まとめ

無から有を形づくっていくことは大変で、つくった有を守り育てていくことも大変である。これらをやめるのは簡単であるし、つぶすことも簡単である。

しかし、思い出は人をつくる。幼少期の楽しい思い出は大人になってからの生きる力になるし、楽しい思い出を経験した子供は、大人になり自分の子供を持った時、我が子にも地域の子にも楽しい思い出づくりをしてあげようとする。

「ど真ん中まつり」は継続してきたことでここまで来た。まさに継続は力である。これからも続けていくには、目的をぶれさせずにしっかりと持ち、気持ちのある人が力を合わせて開催し続けることが大事である。

## 入善町新屋代神楽獅子舞天狗舞の継承について

富山県入善町 教育委員会事務局 局長代理 小野塚 義仁

### 1 はじめに

入善町は富山県の東部に位置し、人口22,000人、面積は71.29km<sup>2</sup>の小さな自治体である。本町は、一級河川黒部川が形成した我が国の代表的な扇状地「黒部川扇状地」の中央に位置し、東に朝日町、南西に黒部市、北は日本海に面している。

本町の豊かで魅力のある資源の第一に挙げられるのは「水」である。黒部川の水は扇状地の中を伏流水として流れ、湧き水となって先端部で自噴している。

また、本町は広大な平野部を持つ穀倉地帯である。扇状地上を流れる豊かで清らかな水は、農業用水として利用され、本町の産業を支え、季節ごとに異なる景色を映し、本町の象徴となっている。

### 2 実践・取組について

#### (1) 入善町新屋代神楽獅子舞天狗舞（以下新屋獅子舞）とは

##### ① 新屋獅子舞の歴史

入善町の中部に位置する新屋地区に伝わる400年もの歴史がある祭礼。新屋地区の獅子舞は、獅子、大天狗、小天狗による様々なバリエーションの踊りがあり、その数は12種類にも及ぶ。



写真-1 入善町

伊勢神楽の流れを汲んでおり、数百年前から周辺の地域に分布していくなど、新川地方の獅子舞の中心である。1977年入善町の無形文化財に指定された。

##### ② 新屋獅子舞の流れ

この獅子舞は2年に一度、10月第2土曜・日曜の2日間、町新屋の住吉社の秋祭りに行われる。初日の宵祭りの午後4時ごろから始まる降神の神事が終わると、境内で奉納し、次いで、お神輿を先頭に「町廻り」の笛の音でご巡幸に移る。その年に家の祈禱を受ける「神宿」の家では、家の前庭で悪魔払いの「獅子起こし」の舞が始まる。「神宿」の主人はお神輿を迎え、獅子舞の若衆や笛太鼓衆等に酒肴を振る舞う。



写真-2 獅子舞の様子

このようにしてご巡幸は次の「神宿」へと向かい、2日間にわたるご巡幸は夜遅くに神社に帰る。

## (2) 新屋獅子舞継承の3つの課題と対応

### ① 獅子舞の構成員は住吉社の氏子

現在、住吉社の氏子は約180世帯。少子高齢化が進む農村地帯では祭りの担い手が減少し続けているが、氏子の範囲を超えて構成員を募集する予定はないという。

### ② 獅子舞の技術継承

様々な種類のある獅子舞を正確に舞うため、獅子舞に参加する青年層や小学生は、約1か月前からほぼ毎日、宮で練習する。

ほとんどが農家であった時代と異なり、働き方が多様化した現代では、毎晩行われる練習に参加するのも大変である。それぞれの事情や考え方を認め、互いを尊重しながら一体感の醸成を図っているという。

### ③ ご巡幸の「神宿」のなり手の減少

獅子舞の運営費は、「神宿」をはじめとした住民からの「花代」で賄う。多額の「花代」に加え、大勢の獅子舞関係者に振る舞うためのお酒や食事を用意する必要があることから、「神宿」のなり手が減少している。

令和4年、祭りの復活に向け、これまで負担の大きかった「神宿」を改め、神社と4か所の自治公民館でのみ獅子舞を披露するようにした。結果、2日間かけて行っていた日程は、1日のみとした。



写真-3 ご巡幸の様子



写真-4 手踊りの様子

## 3 まとめ

新屋獅子舞のような小規模で神事と密接な関係のある祭りは、継承における課題がある。構成員の範囲、技術への拘り、ご巡幸の文化等が、そのまま祭りにとっての要であるため、少子高齢化による担い手不足を直接的に反映してしまう。

令和2年、コロナ禍で新屋獅子舞は中止した。2年後の令和4年、コロナ禍で地区のコミュニティが弱体化する中、どうすればもう一度獅子舞ができるのかを皆で話し合い、従来の「神宿」を改め、1日だけの開催とし、復活させた。

新屋地区の若衆によると「この地区で育った自分にとって、獅子舞をやるのは当たり前。子供にとっても地域との世代間交流が図れて良い体験となる。できる限り続けていきたい。」とのこと。

血縁・地縁による絆で現代まで引き継いできた地域の誇りともいえる祭り。いつまでも継続されることを望みつつ、せめてこの素晴らしい文化を映像等でアーカイブし、後世に残したい。

## 第3分科会 研究協議概要

### 1 三重県いなべ市の発表について

**意見** 団体のメンバー減少や少子化は、どこも共通の問題である。それを時間をかけて少しずつ解決された取組は素晴らしい。

**質疑** 立ち上げや活動に対し、社会教育委員がどのような形でかかわられたのか。支援等の繋がりはあるのか。

**回答** この事業は子ども会連合会として行っており、社会教育委員としては直接かかわっていない。団体や地域の人が、アンテナを張りめぐらせて、周囲に声をかけて、気持ちのある方に協力していただけたらよい。その中に社会教育委員もいるという形。

**意見** 無の中から生み出された努力に対して、敬意を表したい。

これを継続して、子供たちがいい思い出をつくり、大人になったときに、その思い出が支えになればと思う。



### 2 富山県入善町の発表について

**質疑** 私の地元にも同じような課題があり、資金面の解決策として、市の補助対象となるよう、祭りではなく、イベントとして位置付けている。また、引き手不足のため、ボランティアを募り、いろんな方に参加してもらうことによって、祭りの楽しさを伝え広めていただく方針に方向転換した。そういう考えはおありか。

**回答** 氏子の範囲を超えて継承する考えは今のところない。自分たちが受け継いできた営みや、それに対する評価は自分たちでお持ちなので、今後の方針は都度当事者で話し合い決定されると思われる。

**質疑** 社会教育委員としてどのようにかかわっていったのか。社会教育委員会会議で、この文化の継承について話し合われたのか。

**回答** 地域の祭りに関して、社会教育委員が、てこ入れ策等について意見することはないが、各地域で密接にかかわって行動されている。そういう意味では、かかわっていないわけではない。

**質疑** 私の地域にも江戸時代から続く獅子舞がある。町文化財登録されており補助金がある。また、町職員が担い手にもなっている。そのようなやり方は難しいのか。

**回答** 町文化財に指定されていることにより、年間1万円支給がある。補助や継続支援の趣旨ではなく、あくまでも自主的に続いていくことを応援する気持ちである。地元はあくまでも自分たちでできる範囲でやっていきたいという意思がある。



## 第3分科会 助言概要（・研究協議概要）

### 1 助言者

富山県立大学教授 大石 玄 氏



### 2 助言内容

話題提供者の3人目として自身の取組みを紹介した上で、総括につなげたい。

**取組紹介** アニメやマンガ（虚構）と実存する空間（現実）とが結びつくことによって生まれる新たな地域の魅力を見出すことに取り組んでいる。いわゆる「聖地巡礼」である。主な事例としては、富山県上市町から地域課題解決事業として「アニメを通じた町の活性化」を受託し、アニメ『おおかみこどもの雨と雪』の主人公の家のモデルとなった家を活用して、年間1万人以上の来訪者を関係人口へと変えていく作戦に着手するなどした。観光客数や消費額といった経済効果を目指すのではなく、地域の宝を発掘する「地域文化の掘り起こし」が目下の取組。

**小括①** ◇神事・祭事の在り方については、当事者の自己決定に委ねるしかない。

- ・外部の者が価値を見出そうとも、地縁によって成り立っている村落共同体の将来は、構成員にしか描けない。姿を変えていかざるを得ないとしても、記録として保存しておくアーカイビングになら、社会教育が関与する余地もあるのでは。

**小括②** ◇「担い手不足」「資金不足」は共通の課題。

- ・後継者は自然には生まれえない。人を引き込み、育てる営みを続けるしかない。
- ・若い人が集まっているのは学校しかないのが実情。だが、今の学校には様々な地域連携が持ち込まれており、余裕がない。また、義務感から駆り立てても人は集まらない。理想は、学校・職場でも自宅でもない第三者の居場所（サードプレイス）を地域に形成すること。報告事例の継続と成長を願っている。

**質疑** そもそも地域文化とは何であろうか。2つの事例発表は「動」の文化。

**回答** 地名や方言も地域文化である。皆さんが考える「地域文化」をお聞きしたい。

**意見** 古民家や昔からある古い小道は、経済的なプラスはないが、心が落ち着く。日本人が地域の中で守り育ててきたものは、文化的、精神的な拠り所である。そういうものに関心を持つことが地域文化の振興に繋がるのではないかと。

**意見** 伝統食や伝統行事の料理等も検証していくべきものかと思う。

**意見** 中学生時代から習っている三味線で、社会人になって一番有効であったのは、三味線そのものではなく、浴衣のたたみ方や、礼に始まって礼に終わるといった精神の在り方等である。文化を通して、人としていろいろなことを学ばせていただくということ。

今日も各地域で活躍されている先輩方がたくさんいらっしゃる。この人生の先輩方と、今を生き成長している子供たちをどう結びつけるかが重要であると、2つの事例を聞きながら思った。

**統括** 今回は伝統芸能や祭りといった事例が取り上げられたが、地域でどういう行動をとってきたのか、言うなれば生き方、暮らし方等も立派な文化である。こういったものを発掘し、伝え残していくという観点を社会教育に携わる者がリーダーシップを発揮して首唱していけば、今後の地域文化の発展に繋がるのではないだろうか。

## 第4分科会「地域の活性化」

# ふるさと「とみか」が好きな子を育てる 地域学校協働活動

岐阜県富加町 教育委員会 地域学校協働活動支援員 板津 由香里  
地域学校協働本部長 井戸 千恵子

## 1 はじめに

富加町は、人口約5,860人、4 km 四方の小さな町で、近年は転入者で人口が微増しており、少子高齢化の日本の中ではまれな町である。国史跡となった夕田茶臼山古墳や1,300年前の戸籍が正倉院に残されており、古くから人々の営みの続く歴史のある町である。

2020年の学習指導要領改訂にともない、富加町においても富加小学校をコミュニティ・スクールとして、学校と地域がパートナーとなり、相互に連携・協働し、様々な活動に取り組むことにした。そこで、ふるさと「とみか」が好きな子を育てたいという願いをみんなで共有し、「ありがとう」を合言葉に地域人材や環境を活用して地域学校協働活動を行っている。

## 2 実践・取組について

### (1) コミュニティ・スクールの組織

共通の願いを具現化するため、右図のような組織を考えた。地域全ての人々が富加小学校コミュニティ・スクールサポーター（CSサポーター）として、地域学校協働活動に加わり参加するというイメージで、今まであった活動を生かし、「安心・安全部」「学び部」の2部会制としている。

令和4年度には、全世帯にお便りを配布し、CSサポーターを広く募集した。現在、個人のCSサポーターは80名、団体は約10団体で60名ほどが登録している。



図-1 組織図

### (2) 各部の取組の具体について

#### ① 安心・安全部

CSサポーターが、毎日の登下校に付き添い、見守り活動を行っている。安心・安全を支えているだけでなく、時には子供たちの学校や家庭での悩みも相談できる関係となっている。

活動の区分	主な内容
安心・安全部	・登下校の見守り活動、あいさつ活動 ・校庭の草刈り、草取り、花壇整備など ・校外学習の補助
学び部	・教科（書写、ミシンの操作、調理実習補助、そろばんの補助、理科の実験準備・補助、版画・工作学習補助など） ・生活科、総合的な学習（農業・産業学習の指導、地域の伝統・文化の紹介、よさこい指導など） ・読み聞かせ ・CSサポーター主催の講座

図-2 活動内容

## ② 学び部

### ア 教師が主体の授業のサポート

家庭科や書写等での技術サポートや算数の授業での練習問題の見届け、クラブ活動のアドバイス等を行い、CSサポーター自身が子供たちと一緒に楽しんで行っている。

### イ 講師としての授業のサポート

総合的な学習の時間や理科、社会、生活科等に、CSサポーターが地域講師として主体的に授業を行う。昨年度は31回の授業を行った。

### ウ CSサポーター主催の講座

夏休みや冬休みに、公民館講座とは別にCSサポーターによる講座を行っている。「学習広場」「手話教室」「手芸教室」「野外塾（デイキャンプ）」「編み物教室」等である。

富加町では、以上のような活動をするにあたり、教育委員会に事務局員として「地域学校協働活動支援員」を配置し、地域・学校・家庭・行政のパイプ役として重要な役割を果たしている。それによって、次のような効果が得られている。

- 学校職員をはじめ、保護者や地域にコミュニティ・スクールや地域学校協働活動の正しい理解が広がっている。
- 学校と地域との連絡調整をスムーズに行うことができ、子供たちや学校が必要とするサポートや体験活動が充実している。
- 学校内にCSサポーターが集う部屋が開設されており、活動の打ち合わせや準備、情報の共有を通して地域の人同士がつながるとともに、子供たちが親しみをもって休み時間に立ち寄れる場所となっている。
- 活動に参加した若い親世代のCSサポーターが、そのよさを実感し、口こみで登録者、協力者が徐々に増加し、地域の中での繋がりが深まりつつある。夏休み等、中学生ボランティアの参加にも広がっている。
- 地域の人と児童が顔見知りになり、自然なあいさつや言葉のやり取りが見られる。毎日の地道な声かけやかかわりによって、教室に入れないう児童がいないなど、その成果を地域も学校も実感している。

## 3 まとめ

富加町において充実した地域学校協働活動が展開され、地域と学校の良好な関係が構築されていることに質疑が集まった。町教育委員会に、もと教員である地域学校協働活動支援員を配置することによって、地域の思いと学校のニーズのバランスをとりながら、できる人ができるときに集まり、無理のない活動を展開することで、どちらにもメリットが生まれる活動となっていることなど、学校と地域をつなぐパイプ役の必要性を改めて実感する機会となった。「ふるさと」を持続可能なものにしていくために、地域と学校と行政とが手を取り合って、新たな知恵を出し合い、今まであったものや活動を少しずつ変えていく、今後もそうした意識を大切に推進していきたい。

## 進化（深化）する公民館 ～変化していく社会に適応するために～

富山県富山市 教育委員会生涯学習課 係長 本多 由香利

### 1 はじめに

富山市は、平成17年に7市町村が新設合併し、県内最大の市域（1,241 km<sup>2</sup>）と人口（約40万人）を有する。

日本海側のほぼ中央に位置し、水深1,000mの「海の幸の宝庫」富山湾から標高3,000m級の北アルプス立山連峰まで標高差4,000mの多様な地勢と雄大な自然を誇り、また、古くから「くすりのまち」として全国にその名が知られるように、薬業をはじめとする様々な産業と高度な都市機能、そして、多様な文化と歴史を併せ持つ日本海側有数の中核都市として発展を続けている。

### 2 実践・取組について

#### (1) ふるさとづくり推進事業について

市内82か所の市立公民館を拠点に、各地区において「ふるさとづくり推進協議会」を立ち上げ、それぞれの地域特性を生かした事業を展開している。

また、各地区を地域によって11ブロックに分け、年1回ブロック内で研修会を行い、実施した事業の報告や意見交換を行っている。

分科会では、地域住民の連帯感を深め、学びと参加で豊かなふるさとづくりの実現を図ることを目的とする「地域づくりふれあい総合事業」について紹介した。

#### (2) 地域づくりふれあい総合事業について

##### ① SDGsに関する取組

###### ア 速星地区ふるさとづくり推進協議会

コロナの影響で行事が中止となる中で、令和4年2月に速星地区ふるさとづくり推進協議会活動推進員の中でSDGsに関わる取組ができないかと提案があったことがはじまりとなり、富山市社会福祉協議会や食品ロス削減活動が関係する団体、食生活改善推進員、関係する男女共同参画推進員等と協力し、講演会や年2回のフードドライブを実施している。



写真-1 速星地区ふるさとづくり推進協議会の取組

さらに令和5年度には初めてサルベージパーティを実施するなど、活動を徐々に広げている。

引き続き、本取組が地区全体に浸透していくよう継続していきたいと考えている。

#### イ 萩浦地区ふるさとづくり推進協議会

児童館と共催で親子を対象に実施。ペットボトルのふたから作られたフラワーポットの制作過程について講師から説明を受けた後、プラスチックごみのリサイクルの大切さや身近なところからSDGsを考える事ができると学んだ。

最後は、リサイクルフラワーポットを使って花の寄せ植えを作った。

#### ② 幅広い層の利用者を増やす取組

##### ア 上滝ふるさとづくり推進協議会

地域の小学校体育施設開放事業で小学校の体育施設を利用している団体の協力のもと、スポーツ版人間ドック、本気のラジオ体操、ニュースポーツ等、年齢性別を問わず楽しめる屋内イベントを実施した。



##### イ 新保校区ふるさとづくり推進協議会

より幅広い世代の参加を意識し、住民大運動会の代わりにスポーツフェスを実施した。校区の体育協会の協力のもと、気軽に参加してもらえるよう、太極拳教室やストラックアウト等の体験型プログラムを用意し、自由参加とした。

写真-2 上滝ふるさとづくり推進協議会の取組

#### (3) 他団体との協働について

紹介した取組では、それぞれが各地区にある様々な団体や市の施設等と協力し、事業を行っていた。技能やノウハウを持つ地域の各種団体や民間企業等はまさに資産であり、行事に巻き込むことで幅広い世代の参加を見込め、今までよりも進化した姿での公民館活動を住民と分かち合うことができる。

また、今までのやり方にこだわらず、新しい層を取り込むためにアンケートや会議を行い、より地域の住民が参加しやすいような内容へと工夫している。

### 3 まとめ

うまく地域の団体と協働し、毎年知恵を絞りながら行事を開催している地区は各地域のブロック研修会において周辺の地区にもノウハウを披露することで、その地域の行事の企画力、運営力の向上に寄与している。

しかし、さらなる公民館活動の進化には、ブロックに関わらず様々な公民館同士の交流が必要と考える。

各地区の取組を相互に情報交換し合うことで、82地区あるふるさとづくり推進協議会によりよい刺激を与えていけるのではないだろうか。

今後も、ふるさとづくり推進事業の実施が、各地区の各種団体や住民とのつながりの深化の役割を果たし、地域の活性化に貢献できればと考えている。

## 第4分科会 研究協議概要

### 1 岐阜県富加町の発表について

**質疑** 学校にボランティアの方々の顔写真が出ているというのは、保護者や地域の方々に知っていただき信頼関係にも繋がると思うのでとても良い試みである。高校生の参加もあるとのことだが、富加小学校を卒業した中学生の活動への参加はあるか。

**回答** 富加小の卒業生が通う美濃加茂中学校にボランティアの募集をして、今年度は夏の学習講座に14名参加していただいた。富加小の卒業生でない子も含まれている。

**意見** 地域を超えて学校の活動に関わることはとても良い。繋がりが社会教育ではとても大事だと思うので、広く皆が繋がっていけると良い。

**質疑** コミュニティ・スクールを導入して先生にメリットになっていることはあるか。

**回答** 学校にとってお徳感のある人材を配置してもらった。今まで教員がやっていた業務の代わりに担うことで、学校はコミュニティ・スクールを好意的に捉えている。

**質疑** 老人クラブの会長をしているが、高齢化もありこれまでの活動を若い人に引き継いでいきたいと考えている。どうやって若者を取り込めばよいか。

**回答** 保護者の方は昼間働いていて、活動が難しい状況ではあるが、子供のために何かしたいと考えている人は多い。そうした人に年に1回でも参加してもらい、他の保護者にも広まることで活動の継続を図っている。



### 2 富山県富山市の発表について

**質疑** このふるさとづくりの事業はすべて市の教育委員会が実施しているのか。また年に1度、各ブロックで研修会を行っているとのことだが、全11ブロックが集まり情報交換を行う場はないのか。

**回答** ふるさとづくりの事業は、富山市が各地区のふるさとづくり推進協議会に委託している委託事業と補助事業があり、それぞれの地域の実情に合った自由な活動ができるよう市から委託・補助を行っている。全体での研修というものはないが、年に1回全82地区の協議会が集まる場があり、そこでは代表としていくつかの地区に事例発表を行ってもらうほか、講師を招いて事業を実施するにあたり参考となるような内容の講演会を開催している。

**質疑** 弊市では若い世代が公民館に来ないため公民館利用者の年代が偏っているという課題がある。82か所の公民館を所管されているということで、若い世代をどのように引き込んでいくかについてご意見があれば教えていただきたい。

**回答** 本市では小中学校や幼稚園等と協働して公民館で事業を行っている地区もあり、子供たちがイベントの参加者としてだけでなくイベントの準備等にも携わる機会がある。小中学校や幼稚園等との連携が鍵であると考えている。



## 第4分科会 助言概要

### 1 助言者

富山大学教授 林 誠一 氏

### 2 助言内容

元々は高校の教員で全国の小中学校を回った経験があり、学校のことはよく分かる。現在は母校である小学校の同窓会長や地元の公民館長を務め、大学では生涯学習部門の部門長として様々な関係団体等とやり取りを行っている。この経験から人と人との繋がり的重要性を実感している。



#### (1) 岐阜県富加町の発表について

- ◇ 富加町は一体感のあるチームだと感じた。とある市のコミュニティ・スクールの立ち上げの委員をした経験から内情はよく分かる。失敗や苦労も当然あったはずで、令和4年からの3年間でここまで進められていることは大変素晴らしい。資料にもあった「ありがとう」という言葉は、人と人の繋がりの中で一番大事なところであり、繋ぐ人がいなければ、コミュニティ・スクールはうまくいかない。

#### (2) 富山県富山市の発表について

- ◇ 富山市は人口40万人の県内最大の市ということで、これを取りまとめる市は相当大変だと思う。紹介のあったふるさとづくり推進事業では、SDGsをテーマにするなど各イベントのテーマが分かりやすく感じて良かった。私も公民館長をしていると、年配の方向けの活動が多くなってしまいが、いろんな年齢・様々な団体とを繋いでいく取組が今後必要であると改めて感じた。企業等との関係も是非大事にしてもらいたい。

#### (3) 「子どもは、家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く」

- ◇ 日本の人口は減少しているが世界で見ると人口はむしろ増加しており、今の時代にはないものがこれからたくさん出てくると考えられる。人口減少を悲観するのではなく、子供たちには明るい未来が待っていると信じて今の私たちにできることは何かを考えていかなければならない。
- ◇ 県PTA連合会のHPに「子どもは、家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く」という言葉がある。これからの時代はこの役割がますます重要になってくる。日本の人口減少問題は避けて通れないが、変化の大きな社会で大切なことは、これからを生きる子供たちが何を身に付ける必要があるのか、今行っている活動は誰のための、何のための取組なのかを、私たち自身が考えていくことである。



## 社会教育による持続可能なまちづくり

～市民力・地域力を底上げする社会教育・生涯学習～

福井県鯖江市 社会教育委員 森本 茂

### 1 はじめに

鯖江市は福井県のほぼ中央に位置し、北は福井市、南は越前市に隣接する人口約7万人のまちである。昭和30年の市制施行以来、順調に人口増加が続いてきたが、令和3年度をピークに減少に転じ、高齢化率も年々高くなってきている。持続可能な地域づくりを維持していくためには、地域の住民自らが、地域づくりの担い手としての自覚をもつことが重要である。

### 2 社会教育の実践・取組について

このような中、令和5年6月に鯖江市教育委員会より鯖江市社会教育委員会に対し「新しい社会教育・生涯学習の推進について」の諮問を受けた。

この諮問に対する答申をまとめるにあたり、小澤委員長以下、6名の社会教育委員が幹事となり、第9期から第11期を基本とした中央教育審議会（以下、中教審という）の答申に関する合同学習会や地区公民館職員と社会教育委員による社会教育交流会（ワークショップ）を開催した。

ワークショップにおいて、参加者からは、「公民館の利用者や講座の参加者が固定化している」「団体のメンバーが高齢化し、将来の社会教育の担い手が育っていない」「公民館が若者の居場所になっていない」等といった課題が挙げられたほか、社会教育は、教育委員会だけで行うものではなく、社会教育の担い手を発掘・拡大し、市長部局や企業、地域活動団体等との連携を促進するべきであることを共有した。

今回の諮問は、我々社会教育委員にとって、本市における社会教育・生涯学習の在り方を改めて考えるとともに、社会教育委員の役割についても深く考えるきっかけとなった。

#### (1) 本市が目指す新しい社会教育・生涯学習の「基本目標」

社会教育・生涯学習の拠点である公民館は、住民同士が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」ことを促し、人づくり・地域づくりに貢献している。本市においても、この考え方を基本とし、今後目指す新しい社会教育・生涯学習の基本目標を「人づくり・つながりづくり・地域づくりの好循環」とした。学びと実践活動を繰り返し継続することで、個人を豊かにし、そして繋がりをつくり、それが地域を豊かにする、この循環を創造していくことを確認した。

社会教育の概念であるが、ピアノや日舞、パソコン講座等自己実現型の学習を想像されている方も多いように思う。しかし、今後重要となっていくのは、個人の学びを生かして地域の課題を解決するような活動、例えば、健康づくりや防災、まち美化等、暮らしやすい豊かな地域づくりを目指すことだと私たちは考える。

そこで本市では、社会教育により、市民力、地域力をアップし、行政との協働により、笑顔があふれる持続可能な「めがねのまちさばえ」を目指すこととし、今後、鯖江市が目指す新しい社

社会教育・生涯学習の基本目標を「人づくり・つながりづくり・地域づくりの好循環」とした。これは、学びと実践活動を繰り返し継続することで、個人を豊かにし、繋がりをつくり、それが地域を豊かにする、この循環を創造していこうとするものである。

## (2) 市民が共有すべき新しい社会教育・生涯学習の「指針」

社会教育をはじめとする「教育」に関わる全ての人たちが共有すべき指針として、「教育は、個人を豊かにすることに始まり、社会を豊かにすることを目指すもの」とした。社会教育・生涯学習を推進のため、市民や団体が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」ことを促すことが大切である。これによって実現されるのが先述した「社会教育による人づくり・つながりづくり・地域づくりの好循環」であり、本市としても積極的に目指すものである。

## (3) 社会教育・生涯学習推進計画の策定と推進本部の設置について

社会教育・生涯学習は、教育委員会だけで担えるものではない。市長部局各課（例：市民活躍課、防災危機管理課、環境政策課、子育て支援課、社会福祉課、長寿福祉課、健康づくり課等）との連携・協働を通じて、様々な分野の人材を社会教育の新たな担い手として積極的に巻き込んでいくことが重要である。

こういった他部局と連携・協働し、行政と市民が同じビジョンを持って、社会教育・生涯学習を推進するため社会教育・生涯学習推進計画を策定し、社会教育・生涯学習推進本部を設置することを提案した。社会教育・生涯学習のプラットフォームとしては、地区公民館にかかわらず、場合によっては、地域団体や企業、行政が担うことも想定している。

## 3 まとめ

7か月間の研修や意見交換を通じて、人口減少、超高齢化、経済縮小といった社会の大きな変革期において、私たち鯖江市民が、これまでのように「行政はサービスの提供者、住民はサービスの享受者」という考え方からいったん離れ、「住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わっていくことが重要である」という気付きを得た。

社会教育は、個人の成長を促すものであるとともに、他者との学び合いを通じて相互のつながりを形成していく、「つながりづくり」がその最大の特徴である。社会教育の拠点施設である地区公民館を中心に、学び合い、支え合い、地域づくりに貢献しながら、人口減少等社会の大きな変化の中であって、住民の参画による持続可能な地域づくりに向けて、社会教育・生涯学習の果たす役割は非常に大きいと感じている。

今回の答申を通じ、新しい社会教育・生涯学習の理念の下で、「ふるさとさばえ」を愛する人が一人でも多く育ち、地域課題解決を自分事として捉え、活躍してくれることを期待している。そして、私たちの鯖江市が、いつまでも幸せに暮らす人たちの笑顔であふれることを願っている。

## 社会教育委員の役割と課題

### 公民館を核とした地域づくり

富山県上市町 社会教育委員 山崎 正晴

## 1 はじめに

### (1) 上市町の概要

上市町は富山市の東側 15 kmにある農業と工業が調和した田園工業都市で、総面積の 82.5%を森林が占める人口約 19,000 人の自治体である。

標高 2,999 mの北アルプスの霊峰「劔岳」は町のシンボルであり、市街地からは圧倒的な存在感を放つ姿を眺めることができる。

町内には、環境省名水百選に選定された「穴の谷の霊水」、真言密宗の大本山として知られる「大岩山日石寺」等、観光名所も多く、日石寺の門前町で食べることができる「そうめん」は、全国ネットのテレビ番組で紹介されたこともあり、平日でも行列ができるほどの名物となっている。



### (2) 学校に関する上市町の課題

#### ① 出生数及び児童数の減少

長く 2 万人台だった町の人口が、令和 3 年に 2 万人を下回り、20 年前に年間 180 人くらい生まれていた子どもも令和 5 年には年間 67 人まで減少した。

町内 6 小学校の児童数も、令和 5 年の 729 人から令和 11 年には 538 人にまで減少する見込で、白萩西部小学校と陽南小学校の 2 校は現在複式学級となっている。

#### ② 上市町学校教育審議会へ諮問

人口面では少子化が進行し、学級面では複式学級が増加、施設面では老朽化による大規模修繕等の発生が今後想定されることから、令和 5 年 5 月、小学校の適正規模に関する基本的な考え、小学校の規模適正化に向けた学校統廃合の具体的な枠組み等、学識経験者や教育関係者等から構成される上市町学校教育審議会に町から諮問を受け、令和 6 年 1 月に審議会が答申した。

#### ③ 答申の概要

1 学級の児童数は複式学級とならない 15 人以上が望ましく、現在複式学級がある白萩西部小学校と陽南小学校を上市中央小学校に先行統合（令和 8 年度）し、将来的に全小学校と中学校をまとめた義務教育学校を創設するという内容であった。

## 2 実践・取組について

### (1) 公民館学び・体験等支援事業の実施

地区公民館の行事には、地元の小学校の児童、家族、地域の方等が数多く参加しており、公民館と小学校との結びつきが強く、今後学校の統合、義務教育学校の創設により、地域に学校がな

くなることで、公民館と子供たちとの関係性が希薄化し、公民館事業の衰退、結果として地域コミュニティの衰退につながるのではないかと懸念から、町教育委員会では、令和5年度から「公民館学び・体験等支援事業」を創設した。

#### ① 事業の概要

地区公民館が実施する地域振興活動へ1事業50,000円を上限に支援

- ・地域課題解決型：地域住民の参加による地域課題の解決活動支援
- ・各種体験型：放課後等における子供たちの学習・体験活動支援
- ・世代間交流型：活動を通じた世代間交流による絆が深まる活動支援

#### ② 成果と課題

令和5年度は12の地区公民館の内、3館において事業を実施することができ、その内の1館は先行統合を予定している学校の地元地区公民館であった。

また、令和6年度は現在6公民館から事業実施の申請があり、先行統合を予定している学校2校の地元地区公民館でも事業を実施する予定となっている。

成果としては、先行統合を予定している学校の地元地区公民館を始め、多くの公民館で事業を実施できていることから、統合前の早い段階から各地区において住民同士の絆づくりを実施できている。

課題としては、事業開始2年目ということもあり、社会教育委員の事業への関わりがまだ不十分ということである。

#### (2) 学校運営協議会への社会教育委員の関わり

町で唯一の中学校である上市中学校に令和5年度から学校運営協議会が設置され、公民館代表の社会教育委員が委員として学校運営に参画することとなった。

協議会の設置によって、委員を通し学校から公民館への要望や依頼等が行い易い体制となり、今後、地域学校協働活動の活発な実施が期待できる。

ただし、協議会は2年目を迎えたところであり、社会教育委員の学校運営協議会での本格的な活動はこれからとなっている。

### 3 まとめ

地区公民館は社会教育活動の拠点として、これまで教養向上や交流機会創出等の各種事業を実施してきたが、地域に学校がなくなろうとしている中で、事業を継続し、地域コミュニティの衰退を防ぐためには、子供から大人まで幅広い世代の方が参加してもらえるような事業の実施が不可欠である。

今後、各種団体の代表から構成されている社会教育委員が、公民館事業や地域学校協働活動に関わる学校運営に対し、事業に関する相談や講師となる人材の紹介等、積極的にかかわりを持つことが重要ではないかと感じる。

## 第5分科会 研究協議概要

### 1 福井県鯖江市の発表について

**質疑** 人づくり、地域づくりが大切だということだが、それは経済波及効果があるか、例えば失業率が減少するなどの方程式があれば教えてほしい。公民館が実施している事業について、「棚卸し」は、良いことだと思うが事業を辞めるとなるとこれまでかかわってきた方々との折り合いの付け方が大変だと思う。その点について、どうしているのか。

**回答** 目指すべきところとして、経済の視点は大切だと思うが、鯖江市の事例として、経済に直結する事例はない。多少関連する事例としては、川島町で、川島ごぼうという農産物があるが、ごぼうを掘るのは大変で農業の一次産業としては成立しないところ、ごぼう研究会が立ち上がり、掘りやすいごぼうの開発やマーケティング戦略を考えた。「農業で地域が繋がる事例」として挙げられる。「棚卸し」については、細心の配慮をしながら進めなくてはいけない。公民館運営審議会で客観性を持ちながら諮っていく必要がある。コストに見合うパフォーマンスがあるかなどを検討し、廃止する事業と新規事業を比較して、納得してもらうようにすると良いのではないかと。

**質疑** 「好循環」が大切だと思った。今回の指針を元にどうやって、「好循環」をつくっていくのか。

**回答** 「地域を良くしていく、人づくりを進めていく」という心をもって、取り組んでいく。



### 2 富山県上市町の発表について

**質疑** 「今こそ、社会教育委員の出番だ」と言われるが、社会教育委員の認知度が低い。どのような感覚・立場で活動に取り組んでいるのか。

**回答** 公民館館長で公民館連絡協議会の会長でもあるため、社会教育委員となった。色々なことに幅広く取り組んでいけばよいのではないかと。

**質疑** 社会教育委員として期待されていることは何か。公民館活動とどのようにかかわっているのか。

**回答** 社会教育委員としての活動は、追認型になる。ふるさと教育を進める中では、指導人財の発掘について、社会教育委員の人脈やネットワークを生かしていけると思う。

**質疑** 学校運営協議会には、どのような立場で参加しているのか。地区によって色々な思いがあると思うが、どう取りまとめているのか。

**回答** 学校運営協議会は委員10名。私は、公民館代表として参加している。公民館連絡協議会の場で情報を共有し、また、各公民館の意見を集めるようにしている。



## 第5分科会 助言概要

### 1 助言者

富山大学教授 藤田 公仁子 氏



### 2 助言内容

大変すばらしい発表であり、学ばせていただいた。「社会教育は難しい」と言われると、どう説明してよいか悩むが、今気になっていることについて話したいと思う。

#### (1) 福井県鯖江市の発表について

- ◇ 第8期中教審答申から始まった「コミュニティ・スクール」の「核」となる学校の統廃合が進む中で、子供たちの活動の場をどこに置くかが大切であり、「公民館」が「コミュニティセンター」になっても、「公民館機能」を残していくことが大切である。
- ◇ 今こそ「社会教育」である。地域でどう学びを提供するかとなると、「学社連携」がよく言われる。地域の担い手をどう育てるか、どう具現化するかが社会教育士の仕事として期待される。福井県の取組等、今後を注視したい。
- ◇ 社会教育は「勉強 (study)」ではなく「学び (learning)」である。社会教育委員会を学びの機会にしてほしい。その中で先進的事例を自分たちの地域の中でどう変えていくか。「人づくり・つながりづくり・地域づくり」+「ウェルビーイング」を考える中で、「自分たちの地域の足元」を見据え何ができるか考えてほしい。
- ◇ 今後、情報を得るために、自分からインターネットにアクセスできる環境を整えることも大切である。
- ◇ 子供が大人になったときに町がどうなっていくかを今考えなければいけない。若い世代で感じていることを見据えてほしい。

#### (2) 富山県上市町の発表について

- ◇ 少子化、統廃合とどう向き合っていくか。母校がなくなり、自分の心の故郷がなくなると「人のつながり」が大切になる。「公民館も学校も難しい」と言われるとどうするかだが、北陸はまだみなさんの世代ががんばっているのが大丈夫である。
- ◇ 生涯学習審議会委員、生涯学習推進委員会と連携して学び、実践してほしい。何が必要か一つ一つ探りながら、どうしていくかを「大人の知恵」で考える。子供たちにどんな将来を用意しつつ、子供たちがどんな将来を描いていくかに期待したい。

#### (3) まとめ

- ◇ 学校教育とは違い、社会教育（施設）は何でもありである。今ある公的施設を大切にしながら「コミュニティセンター」の公民館機能をなくさず、大切に将来へつないでいくことが「社会教育」や社会教育委員に求められる力である。みなさんでがんばってほしい。

# 第55回東海北陸社会教育研究大会【富山大会】

## 第52回富山県社会教育大会

## 大会宣言文

現在、私たちは、人口減少や少子高齢化、地域のつながりの希薄化、家庭を取り巻く環境の変化などに伴い、様々な社会課題に直面しています。社会の多様化も進む中、誰もが生き生きとした人生を享受することができる共生社会の実現も求められています。

このような中、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生み出し、地域コミュニティにおける個人と地域社会全体のウェルビーイングの向上に社会教育は大きな役割を担っています。

今年1月に発生した能登半島地震の被害は甚大であり、10か月たった今なお、多くの被災者が困難に直面しています。過去の事例を必ずしも参考にできない未曾有の状況に対応するためには、新しいものをつくり出す創造力、他者と協働してチームで問題を解決する協調性などを発揮しながら、社会教育活動を通じた持続可能な地域コミュニティをつくること、ますます重要となってきています。

本日、東海北陸地区6県1市の社会教育委員をはじめとする社会教育関係者がここ富山市に集い、「目指そう！ウェルビーイングな社会～家庭や地域の教育力向上を通して～」を大会主題に掲げ、第55回東海北陸社会教育研究大会を開催することができました。

私たちは、この大会を通じて情報交換し、認識を深めるとともに、各地域に戻った後も、社会教育活動を通じたウェルビーイングの向上に向けて、より一層の努力と研鑽を誓い合うとともに、本大会の総意において、次の事項について積極的な取組を推進します。

### 記

- 一 全ての子どもたちが安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや体験ができ、未来に向けた社会の創り手として成長できるよう、家庭、学校、地域等が一体的な取組を進めます。
- 一 デジタル社会の利点を最大限に活用しながら、全ての人に社会教育の機会が十分提供されることにより、誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す持続可能な地域づくりを目指します。
- 一 社会教育に携わる者としての使命と役割を自覚し、研鑽と実践を重ねながら地域社会の発展に貢献します。

以上、宣言します。

令和6年10月10日

第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会  
第52回富山県社会教育大会

## 大会旗引継ぎ

大会旗は、第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会長である富山県社会教育委員連絡協議会の山西潤一会長から、次期開催県である、岐阜県社会教育委員連絡協議会の天野知子会長へと引き継がれました。



### 令和7年度 第56回東海北陸社会教育研究大会岐阜大会 第17回岐阜県社会教育推進大会

■大会主題 学びと絆を深める社会教育  
～人・地域のつながりをより確かなものにする社会教育の推進～

■開催日時 令和7年10月3日(金) 10:30～15:50  
受付 9:45～

■会場 全体会・分科会  
ココロかさなるCCNセンター(瑞穂市総合センター)  
〒501-0222 岐阜県瑞穂市別府1283  
Tel: 058-327-7588

分科会  
瑞穂市民センター  
〒501-0222 岐阜県瑞穂市別府1300-3  
Tel: 058-327-8448

※2つの会場の移動時間は徒歩2～3分です。

■内容 ○全体会(開会行事、表彰式、講演)  
○大会旗引継ぎ  
○次期開催県挨拶  
～昼食・休憩・移動～  
○分科会(5つ)

■参加費(資料代) 一人 3,000円

詳細は改めてご案内申し上げます。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

## 令和7年度について

### 第67回全国社会教育研究大会（岩手大会）

令和7年度東北地区社会教育研究大会・第70回東北地区公民館大会

第71回岩手県公民館大会・令和7年度岩手県社会教育委員研究大会

期日：令和7年10月29日(水)～31日(金)

会場：マリオス（盛岡市民文化ホール、盛岡地域交流センター）他

### 東海北陸社会教育委員協議会連合会 各県・市事務局一覧表

県・市	郵便番号	住 所	TEL
岐阜県	500-8384	岐阜市藪田南 5-14-12 岐阜県シンクタンク庁舎内	058-278-0133
三重県	514-8570	津市広明町 13 三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課内	059-224-3322
石川県	920-8575	金沢市鞍月 1-1 石川県教育委員会生涯学習課内	076-225-1839
愛知県	460-8534	名古屋市中区三の丸 3-1-2 愛知県教育委員会あいちの学び推進課内	052-954-6780
名古屋市	461-0001	名古屋市東区泉一丁目 1 番 4 号 名古屋市教育館 6 階	052-950-5045
福井県	910-8580	福井市大手 3-17-1 福井県教育庁生涯学習・文化財課内	0776-20-0559
富山県	930-8501	富山市新総曲輪 1-7 富山県教育委員会生涯学習・文化財室内	076-444-3435

**第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会  
第52回富山県社会教育大会**

---

**報告書**

発行 / 東海北陸社会教育委員協議会連合会  
編集 / 第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会・  
第52回富山県社会教育大会実行委員会事務局  
〒930-8501  
富山県富山市新総曲輪 1-7  
富山県教育委員会生涯学習・文化財室内  
TEL 076-444-3435